

# 生産性の非対称性を伴う技術供与の理論的分析：中間財のヴァラエティーを通

## じたスピルオーバー効果\*

石井 貴大<sup>†‡</sup>

2026年4月27日

### 要旨

近年、最終財企業による技術の無償供与が観察されるが、これは自社の市場シェアを低下させるため、標準的な寡占理論では合理的な説明が困難であった。先行研究は静学的な枠組みでの解決を試みているが、動学的な企業価値への影響は未解明である。本研究は、生産性に非対称性を持つ2社の最終財企業（それぞれ先進国と途上国の代表的企業を想定）によるクールノー競争をR&Dに基づく経済成長モデルへと拡張し、技術の無償供与の動学的一般均衡分析を行う。分析の結果、生産性がより高い既存企業による技術の無償供与は、短期的には自社の静学的な利潤を低下させるビジネス・スティーリング効果を伴うとしても、最終財の生産効率化を通じてマクロ的な中間財需要を持続的に喚起することを示す。この需要拡大は、中間財部門における新規参入とR&D投資を促進し、経済全体のイノベーションのペースを表す中間財のヴァラエティー成長率を加速させる。さらに、この成長率の加速を通じた中間財物価指数の継続的な低下効果が初期の静学的な損失を上回り、既存企業の動学的な企業価値を上昇させる条件を理論的に明らかにする。本研究は、ミクロのレベルにおける技術の無償供与が、マクロのイノベーションを誘発し、長期的な自社の利益として回帰するという動学的な波及経路を提示するものである。

キーワード：技術の無償供与、生産性の非対称性、内生成長、中間財のヴァラエティー、スピルオーバー効果

JEL 分類: O41, O33, L13

---

\* 本研究は JSPS 科研費 JP25KJ0196 の助成を受けたものです。

† 責任著者

‡ 京都大学経済研究所 特定研究員（学振 PD）、606-8501 京都府京都市左京区吉田本町. E-mail: ishii.takahiro.2n@kyoto-u.ac.jp